

1 はじめに

本校は、たてわり班活動を生かした様々な行事や活動で、児童が仲良く楽しく交流することができている。地域の方々は昔遊びに参加する、登下校のパトロールをするなど、学校に協力的である。また、校舎内に幼稚園があるため、交流しやすい。

しかし、今年度はコロナ禍により、よい学習環境であるにもかかわらず、今までのように活動が十分できないと予想した。そこで、1年生には生活科の学習を通して、中小路小の一員としての自覚をもつとともに、他学年や地域の方々への関心を高めたいと考えた。また、ソーシャルディスタンスを意識しながらも、生き生きと活動や体験に取り組める授業を心がけ、実践した。

2 生活科の单元ごとの取り組み

(1) 学校だいすき【2年生との交流】

① 1・2年生なかよくなろう会

2年生とは、週4回一緒に下校する。1年生にとって、一番関わる機会の多い学年である。手作りペンダントのプレゼントとしっぽとりゲームの交流を、短時間で行った。

② おもちゃフェスティバル

2年生が作った手作りおもちゃで、遊び方を教わり、楽しく体験することができた。



(2) 生き物となかよし【公共施設（公園）を利用して】

① 生き物探検隊

中小路小近くには児童公園があり、季節を感じたり生き物を探したりできる場所である。この児童公園は、中小路コミュニティの方々が定期的に清掃活動している。

身近な公園を地域の方々が清掃していることに気づかせたいという思いから、探検日と清掃活動の日を重ねた。地域の方々にあいさつする機会がもてたこと、地域の方々の活動を知ることができた。バッタやコオロギ、ダンゴムシ、クモを捕まえることができた。子どもたちは、生き物の体の特徴などを図鑑やインターネットで調べ、発表会につなげることができた。



← グループ
で発表



← 国語との関連
「はっけん
したよ」

② 動物となかよし【みんなでどうぶつをかおう】

「うさぎにエサをあげたい。」という児童の声から、ウサギの世話体験が決まった。飼育委員のお兄さん、お姉さんに、エサの与え方やだっこの仕方、小屋の掃除の仕方等、親切に教えてもらった。フンを片付ける様子を見て、ウサギの世話の大変さを感じることができた。高学年にも触れ合えるよい機会となった。



(3) 楽しい秋 いっぱい：

秋の季節を感じるとともに、秋の植物や生き物にも関心をもつ単元である。木の実や葉っぱを集めて、それらを生かす活動を行った。

① 秋の芸術作品展【はっぱやみで あそぼう】

拾ってきた木の実や葉を画用紙に貼り付けて、作品に仕上げた。作品は「秋祭り」の際、体育館に展示した。

②秋祭り

ア 準備【あきのおもちゃを つくろう】

全員で、「まつぼっくりけん玉」と「ミニツリー」、
「あさがおのつるで作ったリース」を作った。



↑ 国語との関連
「なにに見えるか」



イ 本番【いっしょに あそぼう】

秋祭りには、幼稚園生を招待した。木の実やはっぱなどを使って、「つるわなげ」、「けん玉」「まつぼっくりシュートゲーム」、木の実を使った「メダル」、「ドングリめいろ」などの店を開いた。幼稚園生に喜んでもらえたこと、幼稚園生のために頑張って取り組んことへの充実感・満足感を味わうことができた。



ウ ミニサンタ登場【感謝の気持ちでミニツリーをプレゼント】

集めておいたまつぼっくりを使ってミニツリーを作り、お世話になっている家族や先生、6年生に、ありがたいの気持ちを込めてプレゼントした。



3 成果と課題

あさがおを育てた後に「色水づくり」「押し花」を作って、敬老の日に祖父母にプレゼントをする活動につなげた。また、木の実や葉っぱを集めたら、それを生かすために「おもちゃ」や「リース・ツリー」を作り、季節を感じるとともに自分の身の回りにいる人たちに感謝の気持ちを表したり、喜んでもらったりする『交流・人とのつながり』へとつなぐことができた。1つの活動や体験が次へつながるような授業づくりができたことで、児童は生活科の授業に前向きに生き生きと取り組むことができた。しかし、担任一人で実践できることではなく、周りの先生方や家族の協力があった実践できたことである。そのためには、呼びかけ・相談・連絡・準備が必要となる。事前準備の必要性を実感した。